



8日からの点灯に向け灯籠作りに汗を流す芸術系学生ら



10日の上演に向け稽古に励む演劇関係の学生ら

首都圏の大学生ら

熱気あふれる創作活動

西和賀 演劇、芸術で夏合宿

西和賀町の関係者らで組織する銀河ホール学生演劇合宿事業実行委員会は、首都圏中心に演劇や芸術に関係する大学生らを町内旅館で受け入れる夏合宿に取り組んでいる。演劇部隊は10日の作品上演に向け連日稽古に励み、芸術部隊は8日から湯本地区に展示する灯籠などのオブジェ制作に汗を流す。演劇発表時に錦秋湖に灯籠を浮かべて水に沈んだ集落を連想してもらう趣向もあり、町内は表現活動にいそむ若者たちのエネルギーと活気で満ち、芸術一色に染まっている。

今回の合宿には、東京や京都、大阪など全国から演劇、芸術に関係する大学生や大学OBら約30人が参加。5～11日まで町内に滞在しながら演劇練習や芸術活動に取り組む。

中心となる「フレイ・タウン2013」をテーマにした演劇合宿は、学生や若者が企画の中心を担い、町内の運営側と協力して事業を展開。10日午後5時から錦秋湖の湖畔ステージで行われる「鬼剣舞子團2022」をテーマとした作品上演に向け、活動拠点となる銀河ホールは連日演劇参加者の熱気で包まれている。

一方、芸術チームは、「風呂美術大学」と銘打って町内温泉旅館の浴室

清掃や館内を会場に作品展示などを行う企画を展開。流木や木の枝など町内素材を使って灯籠やテントなどライティングオブジェを多数制作し、灯籠は8、9両日の夜間、湯本地区内で点灯する。また、10日の演劇上演の際には灯籠を湖上に浮かべ、演劇シーンとのコラボレーションによって雰囲気盛り上げる。

これに絡んで、湯本温泉にある一休館と丑の湯の2館で入浴可能な入浴券代わりのタオルを300円で、町観光協会と対象施設で販売中。8～10日まで使用できる。

初参加で演劇を研究する大阪大大学院2年の金裕彬さん(28)は「演劇の研究だけで実践の場に参加するのは初めて。演

じる機会がなかったの

で、実際に芝居をやってみて分かることを見つけたい。全国の演劇関係者と出合えることにも意義がある」と意欲的。

一方、11年の初企画時から連続参加している日本大芸術学部3年の染谷有紀さん(21)は「錦秋湖が出来る時に集落が消えた話を聞き、集落を再

び浮かび上がらせることをイメージして家型の灯籠制作を考えた」と企画の趣旨を説明。その上で「湯本地区のライトアップと錦秋湖に浮かべること

とで、時代を超えて見えなかったものが再び目の前に現れるイメージで、一緒にお祭りを楽しむように訪れた人にきれいだと言ってもらいたい」と意気込む。

和 10、

県トヨ 会が主催 P貼トー 手チャリ

詩の魅力楽しく

児童対象にワークショップ 詩歌文学館

北上市本石町の日本現代詩歌文学館が主催する「こどもの詩のワークショップ」は7日、同館で始まった。今年の講師は詩と批評の雑誌「ミテ」の編集に携わり、埼玉大日本語教育センターで詩を指導している新井高子さん。初日は参加した児童が言葉遊びを通して詩の魅力に触れた。

第一線で活躍している詩人の指導で、体験など

も交えて詩の面白さを広めようと開催し、今年で6年目。今回は市内を中心に小学2～6年生17人が参加した。

児童は新井さんの手ほどきで擬音語や替え歌などに挑戦。このうち擬音語については、雨や洗濯機などを音だけで表現した学生の詩を鑑賞し、題材を推理。擬音語が使われている秋原朔太郎の詩「猫」を朗読して音の表現の大切さを学んだ。ま



1が口長やれ、寸内り養生

日曜、トク作

現の大切さを学んだ。ま